

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城東中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	85.4%	86.1%
将来の夢や目標を持っている。	64.1%	67.5%
自分には、よいところがあると思う	88.0%	86.2%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	83.2%	84.7%

「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。「出番・役割・承認」を意識した取組をすすめ、自己肯定感、自己有用感の向上を今後も継続して図っていきます。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	4.3%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	10.9%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	28.8%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	23.4%	19.1%
「30分より少ない」	16.8%	11.3%
「全くしない」	15.8%	7.7%

家庭学習については全国平均を下回っています。1時間未満の生徒が5割以上おり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

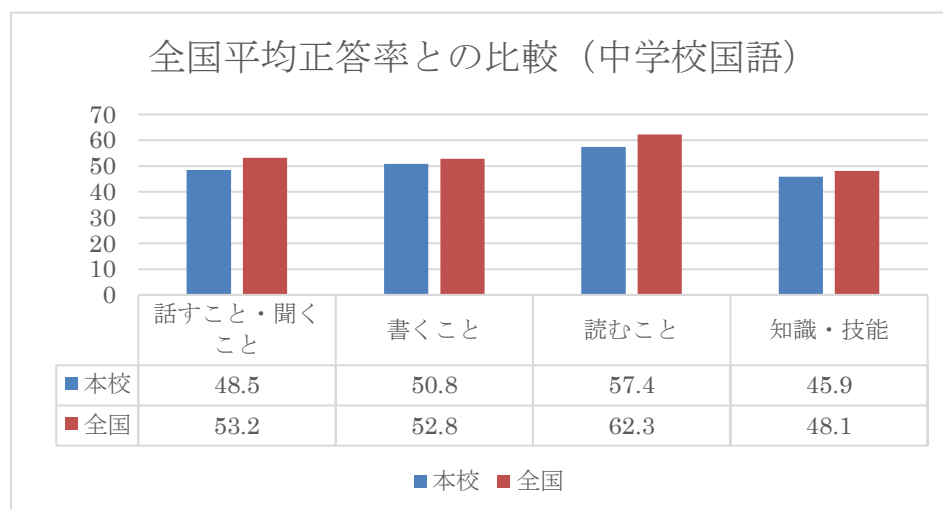
【学校では】

- 学校教育目標「夢実現◇成長の根幹づくり」に向け、学校教育活動全体において、個に応じた出番・役割を設定し、生徒の頑張りや成果を承認しながら自己肯定感や自己有用感を高めていきます。また、将来への見通しを持つことができるようにキャリア教育の充実を図っていきます。
- 家庭学習習慣の定着のために、自主学習ノートの効果的な取り組み方や学習用タブレット端末を活用した学習への取り組み方について丁寧に指導していきます。

【ご家庭では】

- 会話の中で、「将来、何になりたいのか」「どのような職業に興味があるのか」など、お子様の願いや考えをじっくり聞いたり、話し合ったりする機会を増やしていただければと思います。
- 規則正しい生活を習慣化し、家庭学習を定着させることは大切なことです。「家庭学習の手引き」を参考に、自分で決めて学習に取り組むことができるように、励ましや称賛の言葉をかけてください。

2 国 語



(1) 結 果

全ての領域で全国平均を下回っています。「思考・判断・表現」の力の「書くこと」では全国平均・県平均との有意差は殆どありませんでしたが、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」ではともに5ポイント程度下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査では「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の力について顕著な課題がみられました。ただ、「知識・技能」に関わる、言葉や漢字の表記については、日頃の取り組みの中で力がついているように思われます。今回特に気になったのは記述問題の無回答率が非常に高いことです。また、自分の考えを適切に表現したり、文章の要旨を捉えてまとめたりする力も明らかに不足しています。

今後、授業の中で説明文の要旨をまとめたり、小説の主題などについて自分の考えをまとめて書かせたりする活動の中で、表現内容が適切ものかどうか相互に評価・検討し合うような場面を多く設定し、限られた時間の中でも自分の考えをきちんとまとめて表現できるようにしていく必要があると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

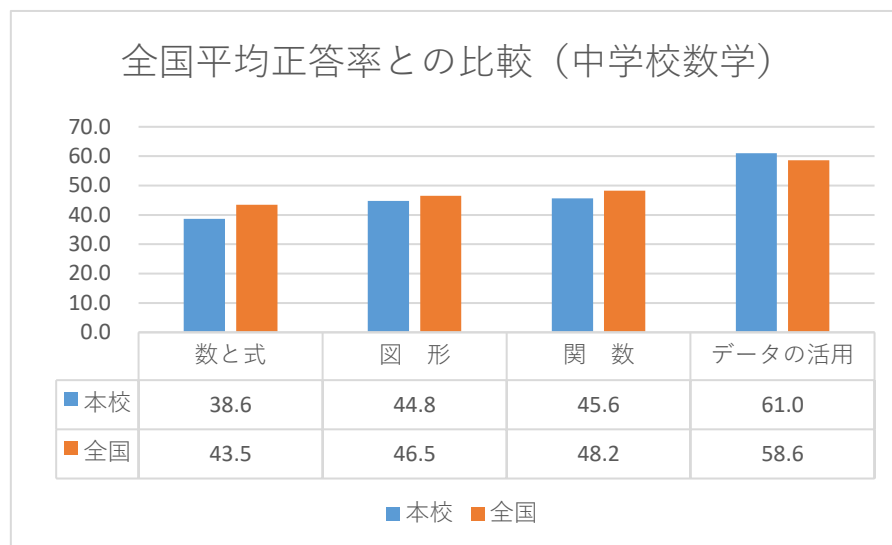
【学校では】

- 限られた時間の中でも自分なりの意見や考えをまとめ、相互評価や検討を加える中で、考えの根拠を明確にして文章を記述・発表するような場面を日々の授業でできるだけ多く設定していきます。
- 自ら課題を設定したり、学び合いの中で相互に表現の内容や説得力を高め合ったりするような主体的な学習への取り組みを促していきます。
- テーマを決めて短作文を時間内に書かせるような時間を作っていきます。その際、文章内容の検討だけでなく、より伝わりやすい表現の仕方についても考えさせていきます。

【ご家庭では】

- 身近な事柄について「自分の考えを持ち」「話し合い、表現する」ような家族のコミュニケーションを大切にしてください。その際「何となく」や「別に」で終わらせないように、会話が広がる工夫をお願いします。
- たくさんの「活字情報」が身近にある環境が「考える力」を伸ばすことに役立ちます。家庭の中で「活字に触れる」環境を積極的に作っていただきたいと思います。

3 数学



(1) 結果

データの活用の領域では全国平均をやや上回りましたが、他の領域では全国平均をやや下回っています。また、問題別の無回答率をみると、全国平均よりも高い問題がありました。

(2) 成果と課題

「D データの活用」では、全国平均を上回っていたものの、確率の問題では全国平均を下回っており、必ずしもすべての事項が定着しているとは言えません。図形については問題に対応して答えることができた様子も見られました。

全領域において、これまで学習した内容ではあるものの設問の仕方に不慣れな問題では正答率が低かったため、数学で使う言葉の意味の確認や応用の仕方を経験させる必要があると考えます。また、具体例を挙げる問題での正答率が低いので、日々の授業の中で取り扱う場面を設定する必要があると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

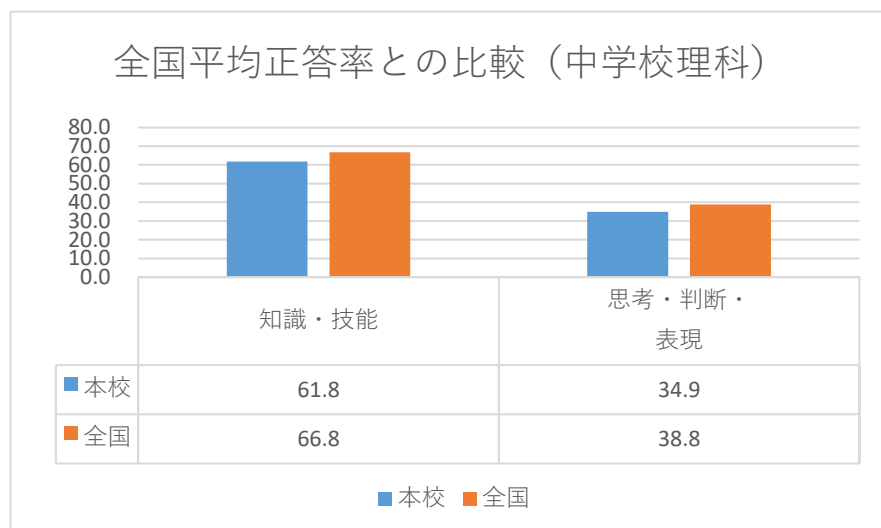
【学校では】

- 与えられた資料から必要な情報を適切に読み取ることや、問題解決の方法を数学的に説明する場面を、日々の授業で設定します。
- 割合や連続する数などの表現方法について繰り返し授業で扱い、復習するようにします。
また、式やことばを使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 変形図に対応できるように、複数のパターンを示すとともに、生徒間で質問・疑問が出やすい授業体制を作るようにします。様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。

【ご家庭では】

- お子様の週末課題などの宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 積み重ねも必要な教科ですので、難易度にとらわれず、易しいと思われる内容も丁寧に取り組んで定着させることが重要です。特に数学で使う用語について、確実に復習、確認するように声をかけてください。

4 理科



(1) 結果

「知識・技能」、「思考・判断・表現」の両観点ともに全国平均をやや下回っています。
記述式の問題では、全国平均に比べ無解答率が高くなっていました。

(2) 成果と課題

「理科の実験では、なぜ水道水でなく精製水を使うのかな？」という問題を解決するための議題を記述する問題や2人の発表を見て探求の過程における振り返りを記述する問題において無解答率が高くなっていました。

一方、思考力を問われる問題でも、記述式でなく選択式の設問であれば正答率が高い傾向が見られました。思考力は育っているものの、表現を躊躇する傾向が全体的に見られます。

知識を問う問題については、全体的には全国平均と同等の結果でしたが、元素記号を記述で答える設問において正答率が極端に低くなっていました。今回はタブレットでの入力でしたので、元素記号の大文字と小文字を区別して入力できていない可能性があります。日々の授業の中で取り扱う場面を設定する必要があると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 日々の授業の終末において、文章によるまとめを行う場面を設定することで、生徒の表現力の向上を図ります。
- グループ活動など学び合いの中で、相互に説明し、質問するような主体的な学習への取り組みを促していきます。
- タブレットを活用する時間を増やし、授業の中でのICTの利活用を推進します。

【ご家庭では】

- お子様の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 宿題だけでなく、eライブラリなどタブレットを活用する課題に取り組むことも大切です。自発的に学習する習慣が身に付くように声かけをお願いします。